

祈りのきずな 8月

詩編86編～詩編116編

湘南台教会（神奈川） 牧師 西野 修平（にしの しゅうへい）

1 日(金)詩編86編11節

主なる神さまの真実だけを求めるとの告白です。「心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい」（申6・5）という命令と招きに応え、自らの信仰や思いさえも主に砕いていただき、ただ主だけを礼拝し、主の真実にのみ従っていく心を与えていただけるよう祈りましょう。

綾瀬小園教会と岩瀬礼牧師（神奈川・綾瀬市）

2 日(土)詩編87編 4～6 節

4節では、エジプトを象徴的に表した名前であるラハブと、バビロン捕囚を行ったバビロンの名前が挙げられます。ペリシテ、ティルス、クシュも含め、かつて敵だった国々も、神の都の住人だと告げます。主ご自身が民の名簿をつけ、すべての国々は神の都の住人であり、親戚であると言ってくれるのです。

相模中央教会と吉田真司牧師、江原美歌子音楽・子どもユース担当主事、斎藤剛毅協力牧師（神奈川・大和市）

3 日(日)詩編88編 3 節

これほど苦難の嘆きと叫びに満ちた詩があるでしょうか。また、88編は死を強烈に意識させる言葉に満ちています。イエスさまの墓からの復活を知らない死です。だからこそ生への福音を求めるリアルな祈りなのです。イエスさまの復活の希望をいただきつつ、嘆いている人びとの祈りに心を合わせましょう。

座間伝道所と内藤玲緒奈牧師（神奈川・座間市）

4 日(月)詩編89編34節

洗足の木曜日に読まれる詩編です。主の慈しみとまことを歌う賛美で始まり、混沌こんとんの中の主の勝利を宣言し、ダビデを選び契約を立てたと賛美されるのに、最後は激しい嘆きで終わるのです。しかし、メシアであるイエスさまの苦難と重ねて読む時、主の慈しみと真実は永遠に続くことが分かります。

平塚教会と平野健治牧師（神奈川・平塚市）

5 日(火)詩編90編12節

人生は70年、80年、と詩人は言います。私たちがその年月をコントロールすることはできません。人生は神さまによって定められたものであり、限られたものです。だからこそ、知恵ちえをもって生きる責任があります。主を畏れて過おごし、主を畏れる中で行動することへと促うながしてくれる知恵を求めましょう。

逗子第一教会と小平公憲牧師（神奈川・逗子市）

6 日(水)詩編91編 2 節

私たちを信仰に固く立たせ、主に信頼することで平安が与えられるのだと教え、恐れから解放してくれる言葉です。11～12節は、荒野でサタンがイエスさまを誘惑するために引用した箇所ですが、主の約束と主権は、私たちの勝手な思いに引きずられることはありません。主の守りを信頼しましょう。

湘南台教会と西野修平牧師（神奈川・藤沢市）

7 日(木)詩編92編 1 節

「安息日」というタイトルがついた詩編はここ以外にはありません。92編は、安息日の詩編です。安息日に何がなされるのかを教えてください。タイトルにはさらに「賛歌、歌」とあり、2～4節へと続きます。主に感謝をささげ、み名をほめ歌うことが「楽しい」安息日となりますように。

藤沢教会と伊藤真嗣まさつぐ牧師（神奈川・藤沢市）

8日(金)詩編93編5節

主が世界を治められていると賛美する詩です。主が王として世界を治められるということは、主が言葉によって世界を創造され、言葉によってご自身が創造された世界に秩序を与えたということです。その主の定めが確かであることを、主の宮(教会・世界)で尊厳が守られることで証ししていきましょう。

横須賀長沢教会(神奈川・横須賀市)

9日(土)詩編94編13節

「報復の神」(1節)と聞くとドキッとします。恐ろしく冷たい神さまを連想するかもしれません。悲しいことに悪は世界に満ちていますが、その悪の満ちたところに、なすすべもなくなったように見えるその状況に、主が正義を行い、回復してくださるのです。苦難の時に希望の中で待つ力が与えられます。

港南めぐみ教会と古家克務^{ふるやかつむ}牧師、古家良子^{りょうこ}協力牧師(神奈川・横浜市港南区)

10日(日)詩編95編8節

「マサ」は試し、「メリバ」は争いという意味です(出17・7)。主が世界を創造し民を救ったという事実だけでは、主を信頼できないと言って、自己中心的なしるしと奇跡を求めた過去がありました。この過去の出来事は今を生きる私たちへの警告です。奇跡ではなく、主の言葉に信頼^{のりこ}しているでしょうか。

洋光台教会と萩原永子^{のりこ}牧師(神奈川・横浜市磯子区)

11日(月)詩編96編13節

神の箱がエルサレムに運び入れられた時、この賛美がささげられました(歴上16・23~33)。救いのみ業^{わざ}が起こされ、主が王として神殿に來られたのです。そして、イスラエルにとどまらない救いと正義とご支配を立てられるため、主イエスが世界に來られました。また、再び來られることを信じています。

横浜戸塚教会と堀野浩嗣^{ひろつぐ}牧師、内田泰亮^{たいすけ}協力牧師、カン・パーリー協力宣教師(神奈川・横浜市戸塚区)

12日(火)詩編97編11節

主こそ王であるという宣言から賛美が始まります。主が王であるということは、正義と裁きを実行して全地を治める方であることを示しています。主の正しさとは、主が生命と平和を作る正しさです。裁きとは、その正しさに基づいて行われる裁きです。主を王として従う人には希望の光が輝きます。

横浜大和町教会と鉄井三千夫^{みちお}牧師（神奈川・横浜市中区）

13日(水)詩編98編9節

クリスマスの季節によく歌われる賛美歌「もろびとこぞりて」の土台となった箇所です。イスラエルの歴史の中に救いのみ業を起こし、関わることを通して主が来られました。そして、さらに続く苦しい歴史の中に、救い主として来てくださったイエスさまを初期キリスト者はこの詩編を通して賛美しました。

日野神明伝道所と林大仁^{はやしひろひと}主任牧師、鉄井三千夫協力牧師（東京・日野市）

14日(木)詩編99編9節

99編も、主こそ王から始まる賛美です。その王は裁きと恵みの業を成し遂げられる方です。また、民に応えてくださる王です。さらにその王の特徴として「主は聖なる方」（3、5、9節）と三度宣言されます。イザヤ書6章3節を思い起こさせる聖なるお方は、権威と正義と責任において超越^{しんじ}された聖である方です。

青葉教会と三宅真嗣^{まこと}牧師、三宅友子副牧師（神奈川・横浜市青葉区）

15日(金)詩編100編4節

主の「御前に進み出」る礼拝への招きの詩編です。この詩編をもって賛美する時、礼拝に向かって行進する力が与えられます。主のみ前に入る時に、感謝と賛美、そして感謝のささげ^{たずさ}ものを携えていくようにも招かれています。主の臨在の喜びをいただくとする時、私たちはこれらを携えて行っているでしょう。

横浜JOY教会と山中臨在^{ともなり}牧師、澤田猛^{たけし}伝道師、石田政美^{まさみ}派遣牧師（神奈川・横浜市旭区）

16日(土)詩編101編 2 節

ダビデの詩として読まれた賛歌です。王としての責任を果たす土台であり支えであったのは、主の「慈しみ」と「裁き」でした。そして主への賛美です。「完全な道」とは、主の慈しみと裁きに一致した責任ある行動です。その完全な道は、主が訪れてくださらなければ歩むことはできないのです。私たちも。

横浜ニューライフ教会と田坂元彦^{もとひこ}牧師、結城勝吾^{しやうご}副牧師（神奈川・横浜市都筑区）

17日(日)詩編102編18節

18節までは苦しみの中で救いを求める祈り、19節からはシオンの回復と創造主への賛美が続きます。「貧しい人」(1節)は、不完全な時を生きる私たちの苦しみを表しています。人間は時を支配することはできず、予期せぬ出来事の中で苦しみます。その中にあって、祈りを顧^{かえり}みてくださる方がおられるのです。

百合丘教会と川井信雄牧師、宮原淑子^{よしこ}音楽主事（神奈川・川崎市麻生区）

18日(月)詩編103編 8 節

荒野の旅において、民は主を神とするのではなく、金の子牛を神として拝むという罪を犯しました(出32章)。8節は、その民に対して主が宣言^{あやま}してくださったこと(出34・6)を引用して賛美に変えています。過^そち、背^{そむ}きを犯し続ける私たちに、慈しみと憐れみ^{あはれ}を溢れるほど注いでくださるお方なのです。

川崎教会と松藤一作牧師（神奈川・川崎市中原区）

19日(火)詩編104編14節

野の獣も空の鳥も人間も主が造り、主がそのいのちを養ってくださっています。私たちはそれぞれのアイデンティティから世界を見ます。その見方と価値観は一面的で、世界をむさぼり傷つける方向へと傾^{かたむ}きます。その価値観から抜け出すには、被造物としてのアイデンティティをいただく必要があるのです。

多摩川教会と末盛桜子^{すえもりさくらこ}牧師、永井愛実^{まなみ}音楽主事（東京・狛江市）

20日(水)詩編105編45節

ヨセフ物語～イスラエルのエジプト滞在～しるしと奇跡～出エジプトと荒野での出来事を歴史の詩として歌っています。それは、個人の神ではなく、アブラハム、イサク、ヤコブと続いていく民の神であることを示しています。彼らも、私たちも、国々のただ中で主の約束に守られ、主の掟と教えを守る民です。

経堂教会と藤原靖彦牧師、柏 雅之教会教育担当牧師（東京・世田谷区）

21日(木)詩編106編47節

105編はイスラエルの民に対する主の約束とみ業を教え信頼へと招きますが、106編は主の救いのみ業を忘れて民が背いたことを教え、悔い改めへと招きます。悔い改めは、賛美への備えです。私たちも罪を告白し、悔い改めのささげものを携え、真剣に誠実に、賛美をささげさせていただきます。

東京第一教会（東京・世田谷区）

22日(金)詩編107編29～30節

贖われた人びとは、とこしえの慈しみを賛美するよう冒頭で招かれます。贖われた人びとは、当時の捕囚を経験した人びとでした。さまざまな国の嵐と波に翻弄された民が主の慈しみを体験し、波が静まったことを再び集められて知ったのです。私たちも、嵐を静めるイエスさまによって望みの港に導かれています。

大井教会と加藤誠主任牧師（東京・品川区）

23日(土)詩編108編 4 節

「わたし」の個人の賛美と願いから始まり、「我ら」への救いを求める共同体の祈りで閉じられます。国々が救い主に心開かれていなかったとしても、その国々の中で私たちは賛美をささげます。国々が私たちの隣人であり、慈しみの大きい主を仰ぎ見る時が来ることを信じ、今日もこの地で賛美をささげるのです。

品川教会と奥田 悟牧師（東京・品川区）

24日(日)詩編109編 4～5 節

『私は憎まない』(2024)というドキュメンタリー映画を思い出します。イスラエルからの爆撃で家族を失ったお医者さんが、正義を求めて裁判を起こします。彼は絶望的だと思われるイスラエルで行われた裁判でも、諦めずに「爆撃は誤っている」と主張しました。しかし謝罪を求めた裁判でも、証言者は悪意を返します。

泉教会と城倉啓牧師、村上千代協力牧師(東京・世田谷区)

25日(月)詩編110編 1 節

マタイ22章44節でイエスさまが引用されている箇所です。メシアとしての王の就任を思い起こさせます。イエスさまはメシアとして父なる神さまの右の座についておられます。すべての国も支配者も、イエスさまの裁きの下にあるのです。その裁きは今も、イエスさまの思いと行われたことが基準です。

恵泉教会と福永保昭牧師、松見享子協力牧師(東京・目黒区)

26日(火)詩編111編10節

この詩は、主を永遠に賛美することへと私たちを招き導いてくれます。永遠の賛美の根拠は、「**恵みの御業は永遠に続く**」(3節)からです。主を畏れること(原文では複数形)とは、恵みのみ業である主の真実と裁きと命令を学び行うことです。主のみ業を知ることと主を賛美することは切り離せないのです。

幡ヶ谷教会と山川眞司牧師、梶本欣久^{よしひさ}教育主事(東京・渋谷区)

27日(水)詩編112編 4 節

111編の最後を受けて、主を畏れる人の幸いが語られます。祝福は決して自分が獲得した結果ではありません。それは、主の真実と裁きと命令を行う中で、人生に注いでいただける祝福です。その祝福を歌うことは主を賛美することになるのです。イエスさまの正しい光をいただきながら、共に賛美しましょう。

インドネシア伝道と野口日宇満・野口佳奈各宣教師のために

28日(木)詩編113編 2～4 節

賛美への招き(1～3節)は、主の威厳(4～6節)と主の憐れみ(7～9節)があるからです。主に比べられるもの・並ぶものはありません。主のみ座は高いのです。高い所におられながら、なお低い所に来てくださり、憐れみをもって私たちの社会と家族に入ってください。主のみ名はほむべきかな。

国際ミッション・ボランティアのために(佐々木和之氏・ルワンダ)

29日(金)詩編114編 7 節

2節ずつ対になって、出エジプトの出来事に主の臨在があったことを思い起こさせます。海、ヨルダン川、山、丘は逃げ去り震えました。主の臨在を見たのです。主がただ中で動いてくださったことを思い出し、民はどこに向かうべきなのか、自分たちは誰なのかを心新たに確認させていただくのです。

シンガポール国際日本語教会(IJCS)のために

30日(土)詩編115編 2～3 節

民の周りの国々は言いました。お前たちの神はどこにいる、と。自分の力と計画がすべてを支配しすべてを決めると考える人びとは、同じ疑いを投げます。世界はますますそのような方向に向かっているかもしれません。しかし、この世界に力と計画を持っているのは、主なる神さまだけです。み^{むね}旨を信頼します。

アジアバプテスト女性連合(ABWU)のために

31日(日)詩編116編 1～2 節

主の晩餐で覚えたい詩編です。イエスさまの十字架の死と復活によって、新しい命と希望に生きる約束が私たちに与えられています。その応答と感謝の歌として、この詩をもって賛美することができます。その賛美の応答の告白の土台は、「わたしは主を愛する」であり、愛する方のみ名を呼ぶことです。

ブレス・カンボジア・ネットワーク(カンボジア)のために